

《薬局サーベイランスコメント》

『第6週のインフルエンザの推定患者数は2週連続して減少。第7週以降も減少傾向が継続していく可能性が高い』

薬 局 サ ー ベ イ ラ ン ス
(<http://prescription.orca.med.or.jp/syndromic/kaniyasukei/index.html>) によると、今シーズン（2019/2020年シーズン）の2020年第6週（2月3日～2月9日）のインフルエンザの1週間当たりの推定患者数は約302,000となり、前週に引き続いて減少しました（図1）。週明けの第7週の月曜日（2020年2月10日）の推定患者数は約64,000と第6週の休日明けの値（約78,000）よりも減少しており、第7週も減少が続いていくものと予想されます。

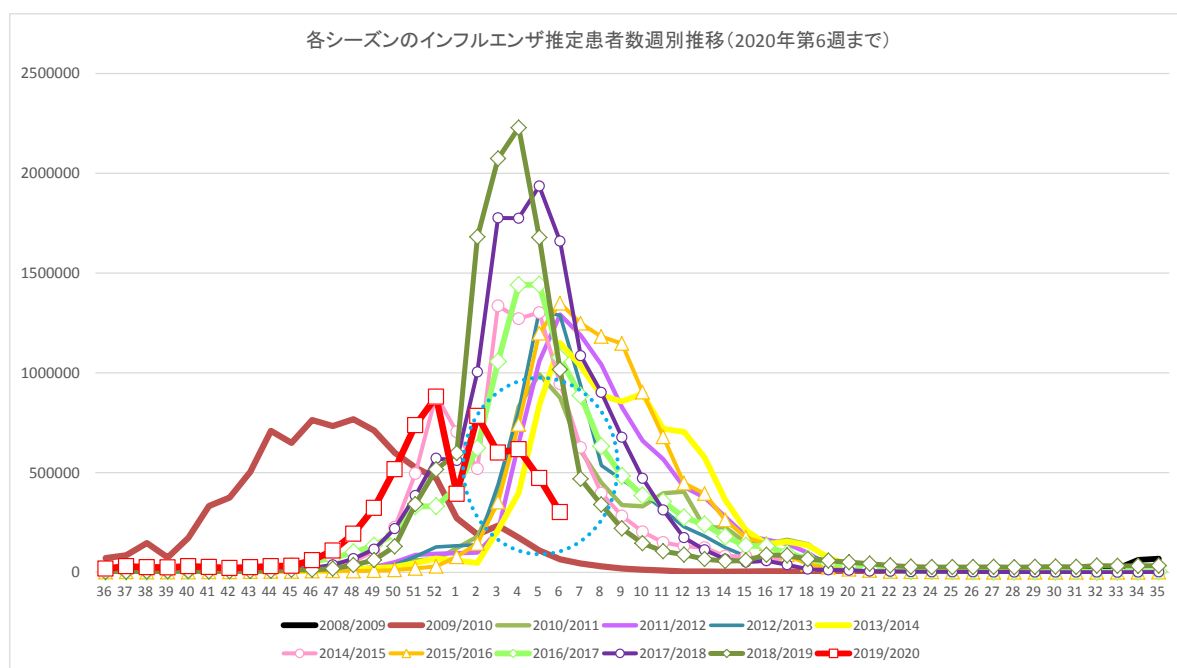


図1. 過去11シーズンと今シーズン（2019/2020年シーズン）の2019年第36週～2020年第6週までのインフルエンザ推定患者数の週別推移

2019年第36週から2020年第6週までの累積の推定患者数は約6,252,000であり、2019年10月1日現在の人口統計を元にした累積罹患率は4.96%でした。年齢群別での累積罹患率は5～9歳（22.43%）、10～14歳（15.56%）、0～4歳（12.28%）、15～19歳（5.52%）、40～49歳（5.29%）、30～39歳（5.28%）、20～29歳（3.58%）、50～59歳（3.36%）の順となっています（図2）。

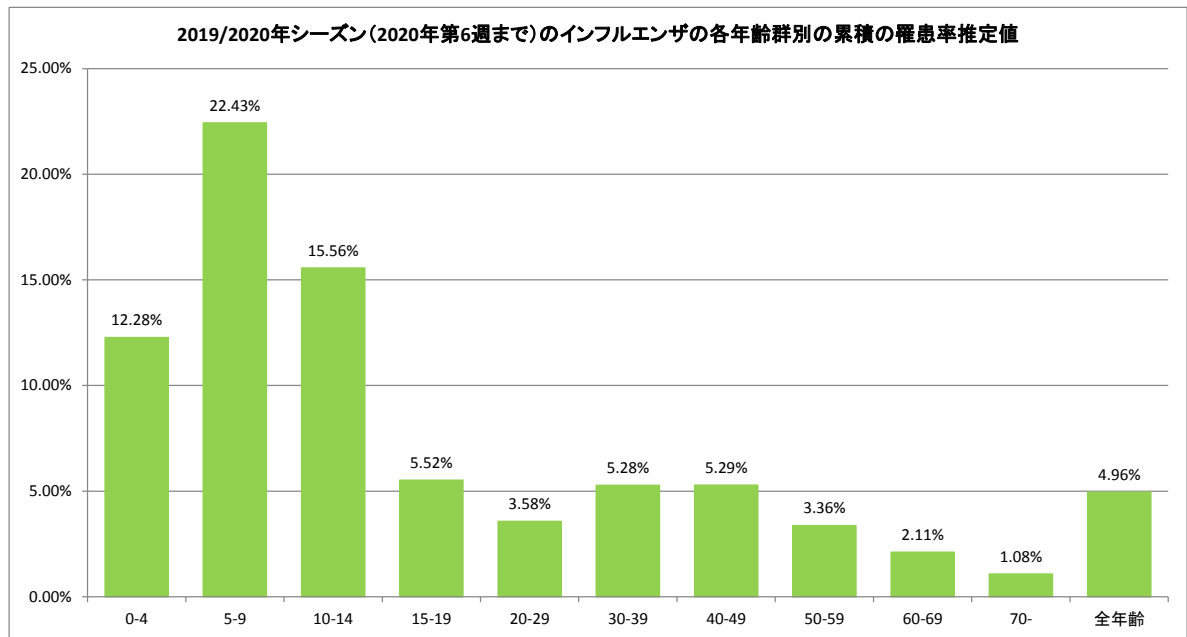


図 2. 各年齢群のインフルエンザ累積罹患率の推定値（2019 年第 36～2020 年第 5 週、累積推定患者数=約 6,252,000）

国立感染症研究所感染症疫学センターの病原微生物情報（<https://www.niid.go.jp/niid/ja/iasr.html>）によると、今シーズンこれまでのインフルエンザ患者由来検体から検出されたインフルエンザウイルス 3,035 検体解析）は、A/H1pdm が 94.0%と最多であり、次いで B 型 3.2%、A/H3（A 香港）亜型 2.8%となっています。

2020 年第 6 週のインフルエンザの推定患者数は 2 週連続して減少しました。第 7 週以降も減少傾向が続いていく可能性が高いと予想されます。ただ、まだインフルエンザの流行は継続しており、今後ともインフルエンザの患者発生状況には注意が必要です。

2020 年 2 月 12 日
 済生会中津病院感染管理室
 安井 良則